

予算額

10,910,175 円

トップアスリートによる巡回指導

巡回指導先団体総数	7 団体			
巡回指導先団体内訳	総合型クラブ	スポーツ少年団	学校	その他
	3 団体	2 団体	2 団体	0 団体

トップアスリート総数	5 名			
トップアスリートの内訳 (大会出場別)	オリンピック	国際大会	全国大会	その他
	名	3 名	2 名	名

アシスタントコーチ総数	1 名
-------------	-----

指導種目	バドミントン、ソフトテニス、サッカー、水泳
------	-----------------------

◆効果をもとめるための工夫や取組など

- 参加者のレベルに合わせてトレーニング内容を考えたり負荷を変えたりして、来てくださった方がみんな満足して帰って頂く様に心がけている。
- 単発的なトレーニングにならない様に、継続性を考慮し、計画的なトレーニングをプランニングしている。
- サッカーの楽しさを伝えるために、練習の最後にゲームを取り入れている。
- サッカーの基本を土台に、「個性」を大切にしている。
- 目的に応じて、さまざまなトレーニングをプランニングしている。
- ポジティブな働きかけ(褒める)を心がけている。
- 運動能力神経への刺激をあたえる為に、コーディネーショントレーニングも多く取り入れている。

◆成果と課題

〔成果〕

- 専門の指導者がいなかった他総合型地域スポーツクラブの教室へトップアスリートを派遣したことにより、参加者の技術が向上したと感謝された。
- トップアスリート派遣により新規教室を開催することができたことや、広報誌・チラシで市内各地に広く広報したことにより参加申込が増え、教室が活性化された。
- クラブ間のネットワークが構築された。
- 中学校部活動は、顧問の先生が種目の専門ではなく、また多忙により指導が思うようにできないという悩みを抱えておられた。そこにトップアスリートを派遣したことにより、基本の徹底、トレーニング方法、試合の実践指導が充実したと感謝された。
- スポーツ少年団の指導者が、アスリート派遣を大変歓迎してくれた。子どもたちへの技術指導が細やかだったことや自分自身の指導法について勉強になったとのことであった。
- アスリートの師範を見たり一緒に活動したりすることで、子どもたちの意欲向上がみられた。
- 当クラブにとって多くの優秀な指導者と協力関係が構築できたことは、今後のクラブ運営にとって大変有意義なことである。

〔課題〕

<ul style="list-style-type: none"> 派遣先のクラブが限定されるので、派遣できないクラブとの平等性が保たれない。
<ul style="list-style-type: none"> 総合型地域スポーツクラブの発展に寄与することができるような派遣事業でありたいと考えているが、アスリートがクラブに今後どのくらい貢献して下さるか、またそのような仕組みをどれくらい構築できるかが課題である。

地域課題解決に向けた取組

取組の名称	集まれ！20代・30代の勇士たち！！スポーツについて熱く語ろう！！				
趣旨・目的	国民のスポーツ実施率が向上したとはいえ、若者のスポーツ実施率は、以前低いままである。そこで、現状を把握し、希望調査・分析をすることにより、少しでも若者のスポーツ実施率向上に繋げる。				
内容	<ul style="list-style-type: none"> スポーツの現状と課題を知るための「スポーツ実施についてのアンケート調査」の実施。 若い世代のスポーツ実施率向上を目指したシンポジウムの開催。 				
対象者	20代・30代の地域住民	参加人数	プロジェクトチーム:8名 シンポジウム:50名	実施回数	7回
1 効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> 月刊誌「パームス」3月号に「ヤンスポシンポジウム」の広告を載せ広報した。 宮崎日日新聞に「ヤンスポシンポジウム」の広告を載せ広報した。 「ヤンスポシンポジウム」のチラシを作り、佐土原町内の幼稚園・保育園等にチラシを持参し参加を募った。ヤンスポの委員にもチラシ配布の協力をいただいた。 佐土原町内の公的場所やお店などにチラシを置き、ポスターも張らせていただいた。 近隣の総合型スポーツクラブにも参加を呼びかけた。 アンケートの作成・集計・分析等を、若者(ヤンスポ委員)に委ねたことにより、活発な意見が出されよりよい会議になった。 				
成果	<ul style="list-style-type: none"> 若者がスポーツをできない理由について調査した結果、予想通りの部分と予想外の部分が把握できた。 ヤンスポシンポジウムを開催し、若い人たちといろいろな話し合いができたことは、次世代に向けて確実にスポーツ文化の種まきをしたという実感がある。この事業を通して若者のスポーツ実施率向上の仕組みづくりに向けて新たな一歩を踏み出せるよう今後も努力していきたい。 				
課題	<ul style="list-style-type: none"> 仕事が忙しいながらもスポーツを実践している若者も多いので、その人たちがスポーツできない層の人々を巻き込んで、一緒に活動できる環境づくりが必要であると感じた。なぜなら「仲間と一緒にスポーツがしたい。職場の人たちとスポーツがしたい。」という声が多く聞かれたからである。若者の声に耳を傾けることがとても大切である。 				

	取組の名称	花の中3・高3プロジェクト				
	趣旨・目的	部活動で毎日のように練習していた中学3年生が、夏の大会を最後に活動を終了し、翌年4月の高校入学までほとんど運動をしない期間が存在することは、いろいろな意味で問題があると思われる。 また、高校3年生も大学進学や就職までの期間スポーツする環境にない生徒が多いという実態は望ましいものではない。そこで、体力の維持・技術の向上・ストレス解消等を目的に週1回～月1回程度専門種目もしくは好きなスポーツを継続できる場を提供した。				
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・中学3年生対象のソフトテニス、テニス、バスケットボール、フットサル教室。 ・高校3年生対象のフットサル教室。 				
	対象者	中学3年生・高校3年生	参加人数/回	20名	実施回数	33回
2	効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> ・ 月刊誌「パームス」11・12月号に「中3対策、高3対策」の広告を載せ広報した。 ・ 宮崎日日新聞12月に「中3対策、高3対策」の広告を載せ広報した。 ・ 「高3対策」のチラシを作り佐土原町内の高校に持参し学校長に理解を求めた。 ・ 佐土原町内の公共施設やお店などにチラシを置かせていただくよう交渉した。 ・ 「高3対策」では、社会人が率先して高校生に語りかけてくれるよう、雰囲気作りを工夫した。指導者が現役選手ということもあり、レベルの高いプレーを間近に見れるので参加者がたいへん喜んで活動していた。 				
	成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部活動を引退してからほとんど身体を動かしていなかったため、とても気持ちよくなったという生徒が何人もいた。 ・ 同じ中学校だった高校3年生が久しぶりに再会し、同窓会気分楽しく活動する微笑ましい姿が見られた。 ・ 高校3年生が社会人からいろいろとアドバイスをもらったり人間関係を深めたりすることを目的のひとつに掲げ、一緒にプレーできるような場の設定をした。生徒たちが社会人になって、将来総合型地域スポーツクラブの会員として教室に参加したり、ボランティアとしてクラブの運営に携わってくれたりすることを望んでいることなども伝えた。 				
	課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ スタートした時期が遅かったため、受験モードに入った生徒が多く参加者が思うように増えなかった。次年度以降はもっと早い段階から開催したい。 				

取組の名称	あそんでつくろう 心とからだ 親子ふれあい体操					
趣旨・目的	<p>親子のスキンシップは、人生の中でほんの短い間にしかできない貴重な経験である。親子で楽しみながら遊ぶことが運動神経の発達、情緒の安定につながるので、親子で楽しく体を動かす遊びを学ぶ機会を提供した。</p> <p>愛知県より講師の先生をお招きし、親だけでなく幼稚園や保育園の先生にも簡単に家でも取り組める体操やおもしろい道具を使った遊び等を紹介していただいた。園で実践しながら保護者にも伝えていただくような内容の講習会となるよう工夫した。</p>					
内容	<p>親子ふれあい体操教室</p> <p>【一日目】対象: 保育園・幼稚園・スポーツ指導者等 内容: 有本先生を迎えて～あそんで創ろう心とからだ～ 「親子アイデアC体創」の講習会と実技指導 アイデアとは・・・思いつき 着想 考案 =心とからだのもとを大切にする C5とは・・・体幹(core)・整え(conditioning)・創造(create)・集う仲間 (communication)・挑戦(challenge)</p> <p>【二日目】対象: 親子 内容: 風呂敷や「手づくり・C5忍者ランド」を使って親子で体験する 子どもの無我夢中を引き出し、遊ばせ名人をつくる うまい下手・できたできないではなく心とからだを動かそう!</p>					
3 対象者	幼児とその保護者、保育士、幼稚園教諭、指導者を旨指す者	参加人数	80名	実施回数	2回	
効果を高めるための工夫や取組など	<ul style="list-style-type: none"> ・ 月刊誌「パームス」1月号に「親子ふれあい体操」の広告を載せ広報した。 ・ 宮崎日日新聞に「親子ふれあい体操」の広告を載せ広報した。 ・ 「親子ふれあい体操」のチラシを作り、宮崎市内の幼稚園に案内文書をつけて郵送した。また、佐土原町内の幼稚園・保育園等にチラシを持参し参加を募った。 ・ 佐土原町内の公共施設やお店などにチラシを置かせていただいた。 ・ 近隣の総合型地域スポーツクラブにも参加をよびかけた。 					
成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「子どもとの接し方が解らなかったけど勉強になりました」と参加者から喜ばれた。 ・ 家に埋もれている「ふろしき」1枚で何時間でも親子で楽しく遊べるのがわかり、幼稚園や保育園の保育士さんたちから今後取組たいとの声が聞かれた。 ・ お母さんだけでなく、お父さんも一緒に参加された親子が特に一生懸命活動されていた。子どもと楽しく遊ぶ姿を見た時に「イクメン」ブームに乗って親子のふれあいがもっともっと増えるといいなと感じた。 					
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回学んだ内容を、各家庭や幼稚園・保育園等で取り入れて継続して活動していただくことが大切である。 ・ クラブでも親子体操教室等を新たな事業として開催することができるとよいと考えている。 					

本事業全体の成果と課題

〔成果〕

- ・ 地域において「総合型地域スポーツクラブ」の存在を強くアピールすることができた。
- ・ トップアスリートから指導を受けることによって、子ども達が目の色を変えて取り組む姿が見られた。
- ・ トップアスリートの方々が、自分の経験や技術を地域の中で生かすことができることに喜びを感じてくださったことがこの事業の大きな収穫だった。アスリート謝金について感謝され、今後クラブにもっと貢献したい地域に還元したいと言ってくれるアスリートもいた。
- ・ 派遣先クラブとの協働作業が進んだ。今後のネットワークづくりに役立つと感じた。

〔課題〕

- ・ トップアスリートから指導を受けられる人が一部の人に限られるのはもったいないと感じる。より多くの人々への還元ということを考慮していきたい。
- ・ 地域課題解決のテーマを一過性のものにせず、今後継続して深く掘り下げながら活動していきたい。
- ・ 事業の企画書作成段階で、不確定要素が多いので、指導者への依頼や会場の確保等難しい面が多かった。
- ・ 地域のスポーツ環境をよりよく発展させていくためには、どのようなことが必要か、この事業を終えた後のことも視野に入れて見通しを持ち議論しながら進めて行かなくてはならないと感じた。